

# まち歩きアプリ 「名古屋歴史 スマートナビ」

スマホの利用が急速に広がっている。スマホを使ってまち歩きを楽しんでもらう、まちを回遊する人を増やそう。そんなアプリ制作のお手伝いをする機会に恵まれた。その顛末を紹介したい。



石田 富男

## ワークショップによるシステム検討

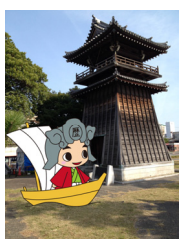
名古屋文化遺産活用実行委員会の取り組みとしてプロジェクトがスタートしたのは二〇一二年。昨年度は、文化庁の補助を受け、アプリの構成を検討するとともにコンテンツの収集・整理を行った。まずは見本となるアプリはないかと思えるアプリに巡りあえない。AR(拡張現実)技術が注目を集め、それを目玉にしたアプリが出回っているが、使いにくかったり、わざわざARを使う必要があるのかと思ったり…。

## アプリ開発

開発にあたって悩ましかったのはiPhone用とandroid用の二つのアプリを制作するかどうか。同じシステム構成でも開発は別ものなので二本分の開発費用がかかる。どちらかにしぼり機能を充実させるべきか、それとも両方つくるべきか。結局、現時点ではandroidユーザーの方が多くということもあり、両方を開発することにした。

ワークショップには学生や地域で活動されている方々に参加いただき、「楽しめる」「参加できる」「使いやすい」という点に留意し、スタンプリ、キャラクターとの写真撮影、現地でしか取得できない画像、地区の特徴を示すコース設定、操作性のよさ、デザイン、地区やポイントを追加できる管理機能など、多様な視点から意見を出し合った。

対象にしたのは熱田と橋町。地区の実情に詳しい参加者の意見交換によってその地区の特徴を示すコース設定とスポットの抽出ができたのではないかと思う。



通常コース



期間限定コース

ワークショップでは意見の踏まえ、基本的考え方や基本仕様を定め、アプリ開発を手がけているところに声をかけ提案募集を実施。ネット等を通じて情報収集し八社に依頼したが、予算があわない等からの辞退があり応募は三社。うち二社に試作品作成を依頼し、試作品をもとにプレゼンを実施。選定会議により地元業者にアプリ開発を依頼することにした。今年度に入りいよいよ開発に取りかかる。まずはiPhone用のアプリを制作。管理機能をつくりこみ、地区やスポットの追加が容易にできるものとした。十月二六日にプレリリース。android用のものも平行して制作にあつたが、様々な機種があり、機種によってはうまく使えないなどの対応に苦慮した。十一月二〇日からダウンロードを可能とし、本格的な情報提供を開始したが、GPS機能がうまく使えない機種があり、すぐにバージョンアップ対応をした。

## イベントでのスタンプリ

アプリを使ってもらうためのしかけとして、あつたか!あつた魅力発見市2013(11/23・24)でスタンプリを催す。十三カ所のスポットを設定。一〜三



あつたか!あつた魅力発見市  
旧魚半別邸は宮の駅交流サロンとしてオープン

点の得点を取得でき、八点以上集めると賞品(歴まちくんピンバッジ)がもらえるというもの。このアプリの特徴として、GPS機能を使い現地でのみスタンプ機能が使え、ARの武将隊やはち丸、歴まちくんなどがカメラ画面に表示され、その写真をスタンプとして保存したり、twitter等に投稿したりできる。キャラクターの代わりに得点を表示させるという使い方も。当初、スマホの貸出も検討したが、スマホの借用料が高いことや持ち去りのリスクなどから断念。まだまだアプリが周知されていないこともあり、多くの人に使ってもらうとまでは行かなかったが、感想を聞いてみると結構楽しく使ってもらったようだ。橋町界隈でもスマホdeまちあるきと題したスタンプリを12/11〜2/28まで開催。こちらは五カ所のスポットを回る。

このアプリは管理機能を充実させたおかげで、掲載する情報さえ収集・整理できれば、簡単に地区やスポットの追加ができ、多様な形でのスタンプリが可能だ。このシステムをうまく活用し、まち歩きツールとしてアプリが有効に活用されることを期待したい。

# 小学生が文化財をガイドする

喜田 祥子

昨年のラバダブでもご紹介した、愛知県国登録有形文化財建造物所有者の会(略称・愛知登文会)による『こども文化財プロジェクト』。このプロジェクトの中にある「文化財こどもガイド事業」は、国の登録有形文化財建造物を地域の子ども達にガイドするというもので、二〇一二年度より継続実施されており、今年度は実施箇所が三カ所に拡大された。

## 文化財こどもガイド

文化財こどもガイド事業は、地域の文化財建造物について学び、魅力を体験し、その成果をこども達自身の言葉で来訪者にガイドすることで、こども達自身が地域文化への関心を高めるとともに、地域の人々の注目を高め、県下あるいは全国への情報発信力を高めていくことを目的に、二〇一二年度より実施されている。

初年度は名古屋テレビ塔で実施し、今年度は実施場所を半田赤レンガ建物・犬山城下町・鳳来館の三カ所に拡大。犬山城下町と鳳来館の二カ所では、文化財の建物だけでなく、その地域の歴史や特色を含めた内容とした。

講座内容は、全三回の連続プログラムで、初回は文化財の魅力を体験して知る場、二回目はオリジナルの教材を基に文化財について学びどのようにガイドするかを考える場、三回目は最終日はこども二〜三名でグループをつくり、来訪者を相手に実際にガイドした。以降に今年度実施した取り組みを紹介する。

### ◆半田赤レンガ建物

半田赤レンガ建物は、一八九八年に丸三麦酒株式会社のビール工場として建築された。宮崎駿監督最新映画「風立ちぬ」の名古屋駅のシーンに「カプトビール」の看板が登場するが、まさにその「カプトビール」がここでつくられていた。

講座には、近隣二校の小学四〜六年生九名が参加。赤レンガ建物の三つの意義



半田赤レンガ建物(上)  
ガイド本番の様子(下)

### ◆犬山城下町

犬山城下町には歴史的建造物が数多く残っている。国登録有形文化財についていえば、愛知県にある三七八件のうち約五分の一にあたる八二件が犬山城下町にあり、県内で最も国登録有形文化財が集まる地域である。犬山城下町でのこどもガイド事業は、国登録有形文化財の建物だけでなく、国宝犬山城や城下町のつくりなどを含めて学ぶ機会とし、ガイド本番も城下町のまちなかを歩いてガイドした。